

MRI 検査手順

フルボディスキャン タイプ

スキャン 条件1

CRT-Dスキャン 条件

植込みCRT-D : Quadra Assura, Quadra Assura MP

スキャン 条件2

植込みリード : Tendril MRI™(モデル番号 : LPA1200M/46,52) 

植込みCRT-D : Gallant HF(モデル番号 : CDHFA500Q)

スキャン 条件3

植込みリード : Tendril™ STS(モデル番号 : 2088TC/46,52) 

植込みCRT-D : Gallant HF(モデル番号 : CDHFA500Q)


条件付きMRI対応CRT-Dが植え込まれています。

患者氏名 _____

緊急連絡先 _____

植込み施設 _____

診療科名 _____

 1.5T MRI 専用

CRT-D	モデル番号	シリアル番号	植込み日
心房リード			
心室リード			
左室リード			

(注) リード植込み後の期間はMRI検査を受けることはできませんのでご注意ください。


条件付きMRI対応CRT-Dが植え込まれています。

患者氏名 _____

緊急連絡先 _____

植込み施設 _____

診療科名 _____

 1.5T MRI 専用

CRT-D	モデル番号	シリアル番号	植込み日
心房リード			
心室リード			
左室リード			

(注) リード植込み後の期間はMRI検査を受けることはできませんのでご注意ください。


条件付きMRI対応CRT-Dが植え込まれています。

患者氏名 _____

緊急連絡先 _____

植込み施設 _____

診療科名 _____

 1.5T/3.0T 対応

CRT-D	モデル番号	シリアル番号	植込み日
心房リード			
心室リード			
左室リード			

(注) リード植込み後の期間はMRI検査を受けることはできませんのでご注意ください。

事前確認

- ・条件付きMRI対応カード確認 (緑色のカード)
- ・本体とリードの全てがMRI対応であること
- ・遺残リード、その他のデバイス、アダプターなどが植え込まれていないこと
- ・リード植込み後6週間経過していること
- ・リード抵抗が限度値内であること
- ・MRI設定時のペーシングモードが非同期ペーシングとなるよう設定されている場合、出力5.0V/1.0msまたは7.5V/1.0msで横隔膜刺激がないこと
- ・右心房または右室リードの閾値が2.5V、パルス幅0.5ms以下であること
- ・右心房または右室リードのキャプチャー閾値が不安定でないこと
- ・左室リードの閾値が2.0V、パルス幅0.5ms以下であること
- ・リード損傷の疑いが無いこと
- ・平熱で体温調整に異常がないこと
- ・検査当日は仰臥位(腕の位置は体の横とする)で撮像が行えること

- ・条件付きMRI対応カード確認 (緑色のカード)
- ・本体とリードの全てがMRI対応であること
- ・遺残リード、その他のデバイス、アダプターなどが植え込まれていないこと
- ・リード植込み後6週間経過していること
- ・リード抵抗が限度値内であること
- ・MRI設定時のペーシングモードが非同期ペーシングとなるよう設定されている場合、出力5.0V/1.0msまたは7.5V/1.0msで横隔膜刺激がないこと
- ・右心房または右室リードの閾値が2.5V、パルス幅0.5ms以下であること
- ・右心房または右室リードのキャプチャー閾値が不安定でないこと
- ・左室リードの閾値が2.0V、パルス幅0.5ms以下であること
- ・リード損傷の疑いが無いこと
- ・平熱で体温調整に異常がないこと
- ・検査当日は仰臥位(腕の位置は体の横とする)で撮像が行えること

- ・条件付きMRI対応カード確認 (緑色のカード)
- ・本体とリードの全てがMRI対応であること
- ・遺残リード、その他のデバイス、アダプターなどが植え込まれていないこと
- ・リード植込み後6週間経過していること
- ・リード抵抗が限度値内であること
- ・MRI設定時のペーシングモードが非同期ペーシングとなるよう設定されている場合、出力5.0V/1.0msまたは7.5V/1.0msで横隔膜刺激がないこと
- ・右心房または右室リードの閾値が2.5V、パルス幅0.5ms以下であること
- ・右心房または右室リードのキャプチャー閾値が不安定でないこと
- ・左室リードの閾値が2.0V、パルス幅0.5ms以下であること
- ・リード損傷の疑いが無いこと
- ・平熱で体温調整に異常がないこと
- ・検査当日は仰臥位(腕の位置は体の横とする)で撮像が行えること

MRI 検査直前

- ・1.5Tのトンネル型MRI装置であること
- ・検査は仰臥位(腕の位置は体の横とする)
- ・一軸あたりの最大勾配スルーレートが200T/m/s以下であること
- ・全身SAR2.0W/kg以下、頭部SAR3.2W/kg以下であること
- ・ローカル送信専用コイル又はローカル送受信コイルの使用は、**頭部、下肢(ただし、臀部を除く)、手首に限ること**
- ・スキャン中は体外式除細動器を使うよう準備すること
- ・パーマナントなCRT-D設定を記録すること
- ・CRT-D管理医の指示に従い、プログラムでMRI設定を有効化すること
- ・MRI設定有効化後のCRT-D設定を記録すること

- ・1.5Tのトンネル型MRI装置であること
- ・検査は仰臥位(腕の位置は体の横とする)
- ・一軸あたりの最大勾配スルーレートが200T/m/s以下であること
- ・全身SAR2.0W/kg以下、頭部SAR3.2W/kg以下であること
- ・**円偏波 (CP) によりRF励起したローカルRF送受信コイル (頭部、下肢又は上肢用) を使用していること(送信専用コイルは使用不可)**
- ・スキャン中は体外式除細動器を使うよう準備すること
- ・パーマナントなCRT-D設定を記録すること
- ・CRT-D管理医の指示に従い、プログラムでMRI設定を有効化すること
- ・MRI設定有効化後のCRT-D設定を記録すること

- ・1.5Tまたは3.0Tのトンネル型MRI装置であること
- ・検査は仰臥位(腕の位置は体の横とする)
- ・一軸あたりの最大勾配スルーレートが200T/m/s以下であること
- ・全身SAR2.0W/kg以下、頭部SAR3.2W/kg以下であること
- ・**1.5Tで撮像する場合は円偏波 (CP) によりRF励起したローカルRF送受信コイル (頭部、下肢又は上肢用) であることまた、送信専用コイルは使用不可こと、3.0Tで撮像する場合はローカルコイルの使用は受信専用に限ること**
- ・スキャン中は体外式除細動器を使うよう準備すること
- ・パーマナントなCRT-D設定を記録すること
- ・CRT-D管理医の指示に従い、プログラムでMRI設定を有効化すること
- ・MRI設定有効化後のCRT-D設定を記録すること

MRI 検査中

- ・MRI 検査時は、心電図、パルス酸素濃度計または非侵襲的血压測定のうちいずれかを使用し、血行動態のモニタリングを行う必要がある

MRI 検査直後

- ・プログラムで MRI 設定を無効化する
- ・プログラムで CRT-D チェックを実施
- ・プログラムで CRT-D チェック結果・設定を記録
- ・CRT-D 管理医により、CRT-D が MRI 検査前の設定に戻っていること、調整が必要ないことを最終確認してください



患者様ごとの詳細な撮像条件につきましては、シリアル検索システムでご確認ください
<https://www.cardiovascular.abbott/jp/ja/mri-verification.html>